

# たかさご

社会福祉協議会だより

第42号

令和4年4月1日 発行  
高砂地区社会福祉協議会

発行責任者  
遠藤 幸男

## この一年を振り返って

高砂地区社会福祉協議会 会長 遠藤 幸男

時の流れは早いもので、私たちの前に、正体不明の新型コロナウイルス感染症が突然現れてから早2年が経過しました。この間、世界中の国や地域で多くの尊い命が失われるとともに社会経済活動が混乱し、大きな打撃を受けたことによって、当たり前だった幸せな日常生活を突然失ってしまった方も少なくはありません。



令和3年度の歳末助け合い事業で一人暮らし高齢者宅を訪問しマスクを贈呈

そんなコロナ禍の中で高砂地区社会福祉協議会は、「高砂地区の各町内会長」の皆様、「民生委員児童委員」の皆様、「保護司」の皆様、「子育て支援会」の皆様、そして「福祉委員及び福祉関係諸団体」の皆様方のご協力により、令和3年度の活動を無事に終えることができました。

その主な活動について簡単にご紹介させていただきます。

高砂地区社会福祉協議会は、高砂地区共同募金会と連携して、「令和3年度の歳末助け合い事業」として、75歳以上の一人暮らし豊齢者920名の皆様に対し、コロナ感染防止用マスクを贈呈致しました。

民生委員及び福祉委員は、コロナ禍の制約の中、年間を通じて「高齢者の安否確認や見守り活動」を行いました。

子育て支援会は、子育て支援者会議を開催するとともに、ウイズコロナでの今後の活動方針の決定と活動準備を行いました。社会を明るくする運動高砂支部は、近隣の小中学校と連携を図りつつ「青少年の健全育成」のための会議や活動を行いました。

残念ながら、高砂社協の根幹事業というべき「ふれあいいきいきサロン」は対象が高齢者であり、3密（密閉・密集・密接）による感染リスクが高いため中止致しました。また、高砂地区日本赤十字奉仕団は、各町内会会長を対象とした団員研修セミナー「防災減災に対する知識と技術の向上」を令和4年2月の開催を予定しておりましたが、コロナの急激な感染拡大により中止と致しました。

令和4年度は「ワクチンの3回目接種」と「有効な治療薬の普及」等により、コロナと共存した社会経済活動が再開されつつあることから、高砂地区社会福祉協議会としても、宮城県や仙台市の対応を見据えながら安全で安心な活動を行いたいと思っております。

今後とも、皆様方のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



令和3年度高砂地区社会福祉協議会役員一同



## 中野栄小学校の皆さん 善意 ありがとうございます!!



### ～令和3年度仙台市立中野栄小学校の「赤い羽根共同募金運動」～

中野栄小学校は、ボランティア活動の一環として「赤い羽根共同募金運動」を令和3年10月19日（火）、10月21日（木）、10月22日（金）の3日間行いました。

校内TV放送やポスターで全校児童へ呼びかけたり、授業が始まる前の8時30分から15分間のホームルーム時間を利用してボランティア委員（5、6年生13人）が募金箱を持って各クラスを訪問する等の募金活動を行いました。多くの生徒の善意で15,294円の募金になりました。

中野栄小学校のボランティア活動は2019年までは、公園の清掃やユニクロへの古着寄贈を実施して参りましたが、昨年からコロナ禍の影響のために「赤い羽根共同募金運動」のボランティア活動に変えました。

ボランティア委員の2名の児童から活動の寄稿文を頂きましたのでご紹介いたします。

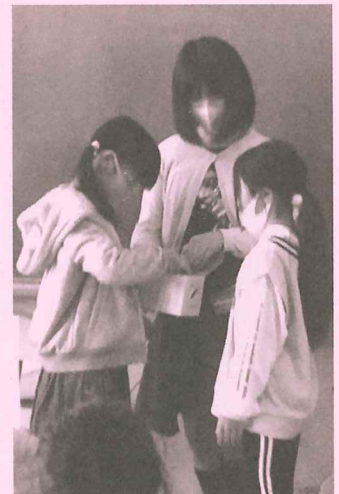
#### 仙台市立中野栄小学校 5年 大森 悠花

わたしが赤い羽根共同募金活動をしてうれしかったことは、ある学年のクラスで、半分以上の人が募金を持ってきてくれてびっくりしたことです。地域の助けを必要としている人のために募金を持ってきてくれて、みんなが「助けが必要な人のため」の募金だと分かっているのだなと感じました。わたしは、赤い羽根共同募金の募金活動を試みて、みんなが少しずつ募金を持ってきてくれてうれしいと思いました。また、募金活動をしたいです。

#### 仙台市立中野栄小学校 5年 太田 歩里

わたしたちは、赤い羽根共同募金活動をしました。募金活動をしていると、何だか心がポカポカしてきました。なぜなら、直接ではないけれど募金活動を通して、お年寄りや車いすの人の手助けができていたように感じたからです。そして、手助けをしたいと思っている人がこんなにたくさんいることも分かりました。

ボランティア委員会に入って良い経験が出来ました。



各クラスを訪問して募金活動をするボランティア委員の児童

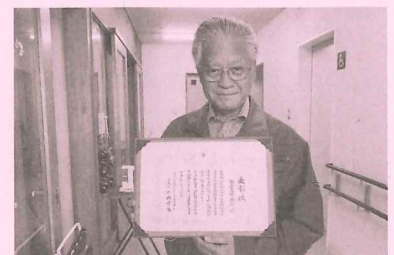
おめでとう  
ございます

### 田子西地区町内会 日赤仙台地区本部委員長表彰受賞

高砂地区日赤奉仕団の令和3年度の活動は、コロナ感染状況が多少なり収束気味になる中で、これまでと違うコロナウイルス感染がまん延し始めたことにより、高砂地区の日赤奉仕団の多くの団員の活動が出来なくなりました。このような中で、第43回仙台地区本部赤十字奉仕団大会に於いて、11年前に発生した甚大で未曾有の東日本大震災に遭遇しましたが、5年後に多くの方々と協力し合いながら田子西地区に新たな4町内会（田子西・田子西中央・田子西こだま・田子西三丁目）を立ち上げました。

その後は多くの諸先輩方からのご指導を頂き奉仕活動を行ってまいりました。この度、今回の活動が評価され令和3年8月19日に赤十字奉仕団仙台地区本部委員会委員長表彰を受賞しました。

団員の皆様にご報告を申し上げます。



受賞の田子西町内会

活動報告

令和3年度 子育て支援者会議開催

令和3年10月18日（月）鶴巻コミュニティセンターにおいて高砂地区子育て支援者会議を開催致しました。

高砂地区の「子育てサロン」は、6つの会場で実施しておりますが、コロナ禍の影響を受けて全部のサロンが2年間中止になりました。

子育て支援者から「早く再開したい」「会場がコロナ感染のため制限を受け開催が難しい」「利用者からの開催時期の問い合わせ等の照会が多い」等の発言がありました。川本会長から「コロナが落ち着いてきてはいるが、油断できない。本来のサロンの開催はできる状況になっていない。コロナの収束状況や開催場所の選定等を踏まえながら再開の判断をしていきたい」と開催方針を示す回答があり、今暫くコロナの感染状況を見守ることに致しました。



今後の活動等を議論した子育て支援者の皆さん

活動内容

小地域福祉ネットワーク活動とは

高砂社協の根幹事業に位置付けております「小地域福祉ネットワーク活動」についてご紹介致します。

小地域福祉ネットワーク活動は、「安否確認・見守り活動（福祉委員と民生委員が高齢者宅を訪問する等の安否確認）<sup>注1</sup>」、「ふれあいいいききサロン（福祉委員と民生委員が町内会単位を基本に行う集会方式のサロン）<sup>注2</sup>」等あります。これらの活動を実施するに当たり、年度当初の社協総会の承認、5月期には「全体会議<sup>注3</sup>」を開催して事業計画の方針確認、さらには、9つある「ブロック会議<sup>注4</sup>」を開催してブロックにおける詳細な活動計画を立て活動しております。

活動を、年度の上期・下期に分けて取り纏め、年2回仙台市社会福祉協議会に宮城野区社会福祉協議会事務所<sup>注5</sup>を通じて報告をしております。また、これを担う福祉委員、民生委員の皆様には、「福祉委員研修会<sup>注6</sup>」を開催し、資質の向上を図っております。

令和3年度の見守り活動は、令和2年度後半に発生した新型コロナウイルス感染症を防止するため、引き続き活動の自粛を余儀なくされ、直接訪問面談を避け、電話連絡や外からの見守りとなりました。また、「ふれあいいいききサロン」活動は、参加者の安全を考慮し、休止の状態にあります。

なお、コロナ感染による影響前の令和元年度の年間活動実績は下表の通りでした。

（※ 注印は裏面の高砂地区社協の活動図の注印と一致します。裏面をご覧ください）

【小地域福祉ネットワーク活動等実績（令和元年度）】

注1 見守り活動世帯数（延活動数）	3,738世帯（延62,440回）	備 考
注2 ふれあいいいききサロン（参加者数）	72回（1,626名）	・ふれあいいいききサロンの参加者数はスタッフを含みません。
注3 全体会議参加者	25名	
注4 ブロック会議	延22回	
注6 福祉委員研修会（参加者数）	145名	

コーディネーター・アラカルト



～私の地区の小地域福祉ネットワーク活動について～

宮 人 千恵子 (第一民児協)

田子ブロックは、田子小学校区の古くからの町内、日の浅い町内等様々な10町内、福祉委員21名、民生委員13名で活動しています。

福祉委員の見守り活動は、家族構成等で回数が違ってきます。ふれあいいきいきサロン、ブロック会議はそれぞれ年2回の開催をしております。また、情報交換(例:サロンの内容)等を目的として福祉委員会を年5回開催(内2町内会合同開催も有)致しました。地域の音楽グループ出演のサロンでは、この音楽グループの活動に賛同し、入会して活動をしている方もおり、活動の輪が広がっております。

2年程コロナの影響で活動が制限されているので、安心して集える日を地域の方々とお待ちしております。



～コロナ禍におけるコーディネーターの役割～

佐 藤 よし子 (第二民児協)

コロナ禍において自粛生活も2年を過ぎようとしています。催し物も中止され社会からの孤立や体調の悪化が心配されております。社会との交流不足は、生活範囲が狭まり、心が沈み、食欲の低下、栄養不足となり、体に変調として現れます。これが“フレイル・ドミノ”と言って健康な状態から要介護状態へ移行する中間段階だそうです。

現在、対面での見守り活動も制限されており、安否確認の電話をしても悪質詐欺と警戒し連絡が取れない事があり、外からの見守りに切り替えたりと細やかな対応が難しい状況です。又、高齢者のみの世帯では、近くに頼れる人がいない等、心細い思いをされている方がいることも実感します。

人との交流や社会との繋がり、心身の健康にとっても大切です。サロンや交流の場を再開できるよう町内会、福祉委員の皆様とともに日常生活の支援に活動していきたいと思っております。



～コロナ禍での見守り活動～

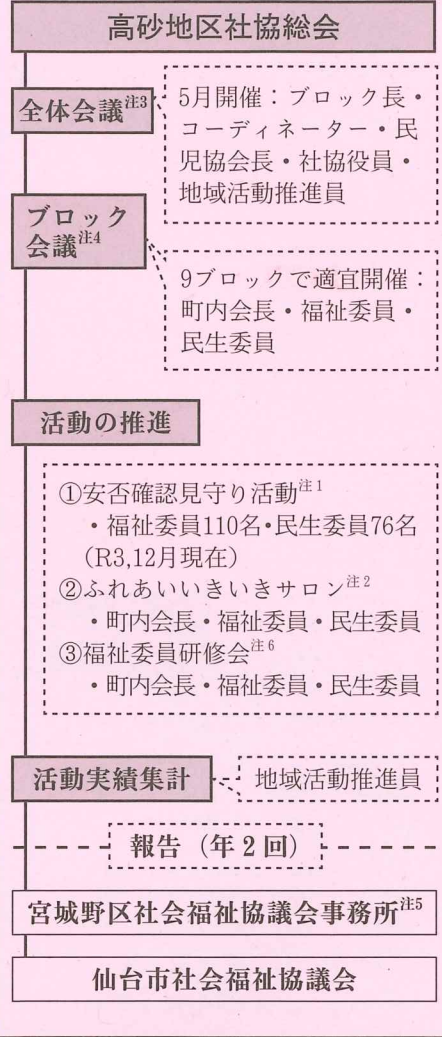
芳 賀 優 子 (第三民児協)

地域の方々の見守り役の民生委員児童委員が、今回の新型コロナ感染拡大で、一時訪問活動が出来ず、見守りという形で活動してきました。コロナ禍で人と人との接触する機会を減らすことが求められ、各家庭の訪問もできず、皆さんがどのように過ごしているかと思うばかりでした。

地域の皆さんも生活制限がある中で、人との関わりが少なくなり、思うように外出ができなかった方もいたことと思います。私も、この状況の中で感染対策を取りながらも訪問し、その後訪問先の方が体調を崩してしまったらなどと考えると躊躇してしまうことがありました。このままで本当にいいのかと自問自答することもありましたが、新規感染者が減り、訪問活動ができるようになって、久しぶりに皆さんの元気な顔を見られた時はとてもうれしく思いました。

猛威を振るったオミクロン株新型コロナ感染第6波は鈍化傾向にありますが、このまま収束に向かい、以前のような日常が戻ることを願うばかりです。

高砂地区社協  
小地域福祉ネットワーク活動図



編 集 後 記

本紙の「たかさご社会福祉協議会だより第42号」は、令和3年度高砂社協の主な活動状況をご報告させて頂きました。

コロナアルファ株・デルタ株の4波、5波そしてオミクロン株6波の中の活動でしたが、これらの落ち着き具合を見計らいながらの活動で例年とは違った安全運行を心掛けての活動でした。多くの制限はありましたが、創意工夫をしながら福祉委員、民生委員、子育て支援者等皆様方のご支援、ご協力を頂きながら活動をすることが出来ました。感謝申し上げます。今後もコロナ感染はあるものと考え、Withコロナを意識しながらの活動を計画していかなければならないと考えております。

副会長総務担当 稗 貫 繁